令和7年6月理事会議事録

1 開催日時 令和7年6月23日（月） 15時00分 ～ 16時57分

2 場 所 社会保険診療報酬支払基金本部

3 出席者

理 事 長	神 田 裕 二
専 務 理 事	山 崎 章 一
公 益 代 表 理 事	山 本 光 昭
同	播 磨 俊 郎
保 険 者 代 表 理 事	木 倉 敬 之
同	紙 田 英 明
同	篠 原 正 泰
同	北 原 省 治
被 保 険 者 代 表 理 事	西 尾 多 聞
同	寺 田 正 人
同	小 林 司
診 療 担 当 者 代 表 理 事	茂 松 茂 人
同	長 島 公 之
同	大 杉 和 司
公 益 代 表 監 事	官 田 晶 子
保 険 者 代 表 監 事	吉 田 雄 彦
被 保 険 者 代 表 監 事	平 川 則 男
診 療 担 当 者 代 表 監 事	篠 原 彰
常 任 顧 問	加 瀬 勝
参 与	森 昌 平

4 議 題 1 議 事

(1) 役員等の選任（案）

ア 公益代表役員等の選任

イ 診療担当者代表の選任

(2) 令和6事業年度事業の実施状況及び決算（案）

ア 令和6事業年度事業の実施状況

イ 審査支払会計

- ウ 保健医療情報会計及び医療介護情報化等特別会計
- エ 財政調整等特別会計
- オ 本部監事監査結果報告

2 報告事項

- (1) 自動遷移ツール事案の再発防止策の進捗状況
- (2) 自動遷移ツールに関する監事検証進捗・結果報告
- (3) 令和7年6月審査委員改選の状況
- (4) 令和6年度の支払基金の取扱状況
 - ア 診療報酬等確定状況
(令和6年4月診療分～令和7年3月診療分)
 - イ 審査状況
(令和6年5月審査分～令和7年4月審査分)
 - ウ 特別審査委員会の審査状況
(令和6年5月審査分～令和7年4月審査分)
- (5) 支払基金における審査の一般的な取扱い(医科)の公表

3 定例報告

- (1) 令和7年4月審査分の審査状況
- (2) 令和7年5月審査分の特別審査委員会審査状況
- (3) 令和7年5月理事会議事録の公表

4 その他

令和7年6月期末手当及び勤勉手当

5 議事内容

(理事長)

ただいまから理事会を開催する。

本理事会の議事録署名者として、西尾理事、茂松理事にお願いをする。

また、本日は被保険者代表の樋口理事、診療担当者代表の鈴木理事が欠席である。この結果、本理事会は理事会構成員である理事長及び理事総数16名のうち、14名の出席を確認しているため、支払基金定款に規定されている定足数を満たしており、本理事会が成立することを申し添える。

それでは、議題に入る。

最初に、議事(1)役員等の選任(案)公益代表役員等の選任について、お諮りをする。公益代表役員等の公募については、過日、役員選考委員会において、書類選考及び面接選考が終了し、公益代表役員等の候補者が決定されたとの報告を受けた。本日は、役員選考委員会を代表して、委員長にご出席をいただいているので、この後事務局から選考の経過について報告した後、委員長から選考結果及び選任理由について、ご報告をいただき

たいと思う。

最初に、事務局から報告をする。

(役員選考委員会事務局長)

スライド3をご覧ください。

今回公募の経緯であるが、山崎章一専務理事、加瀬勝常任顧問が、本年6月30日をもって任期満了となることから、後任の役員等の選任に当たり、公募を実施したところである。

次に、公募期間及び応募状況であるが、公募は、支払基金のホームページ等に掲載することにより、本年3月27日から4月30日までの1か月実施し、その結果、2ポストに対し3名の応募があった。

スライド4の、役員選考委員会の開催状況等をご覧ください。

第7回選考委員会は、3月17日から24日にかけて持ち回り開催とし、今般の公募に係る募集要項に該当する職務内容書の決定などを行った。第8回選考委員会は5月12日から22日にかけて持ち回り開催として、書類選考を実施し、履歴書、職務経歴書及び自己アピール文書から、職務内容書に記載された能力、経験、資格について審査を行った。その後、書類選考を通過した2名に対し、6月5日に面接を実施し、面接終了後、役員選考委員会を開催し、面接評価結果を踏まえ、選考委員で合議の上、本理事会に提示する候補者各1名を決定していただいたところである。

役員選考委員会における公益代表役員等の選任の経過については、以上である。

(理事長)

それでは、ただいまから今回の公募の結果及び選任理由について、役員選考委員会委員長からご報告をいただくが、その前に、当事者である山崎専務理事、加瀬常任顧問においては、審議が終了するまでの間、一旦退席していただく。

(山崎専務理事、加瀬常任顧問 退席)

(役員選考委員会委員長)

お手元に選考委員の名簿が配付されているが、この度の支払基金役員等の公募による選考については、この選考委員会で書類選考、面接を実施し、公益代表役員としてふさわしい者の選考に努めた。

本日は、選考委員会を代表して、委員長である私が選考の経過と結果をご説明申し上げます。

それではまず、理事候補について報告する。

理事候補については、応募者が1名であった。したがって、過日、この1名の面接を実施した結果、前理事でもある山崎章一氏を本理事会にご提示申し上げる。

山崎氏を理事候補として選任した理由であるが、主に三つあり、1番目、支払基金改革の趣旨、経緯を十分に理解しており、支払基金の理事としてこれまで培った豊富な経験や知識により、組織が抱える問題点に対し、改善へ取り組んでいくという強い責任感が感じられたこと。

2番目として、現在政府において進められている医療DXに関する知識を有し、その取組をより推進させたいという強い意欲や支払基金として責任を持った意見を述べていくという姿勢が感じられたこと。

最後の3番目であるが、また各選考委員、私も含めた8人の選考委員からは、支払基金での経験も豊富であり、安定感があるといった意見があった。

以上のことから、私たち選考委員会では、山崎章一氏を理事候補者として適任と判断し、本理事会にご提示する。

なお、皆様のお手元には、履歴書、職務経歴書及び自己アピール文書等を配付しているので、ご審議の参考としていただき、審議のほどよろしく願います。

(理事長)

ただいま選考委員会を代表して、委員長から、山崎章一氏が理事候補として提示された件について、質問、意見等あればご発言ください。

(質問・意見等なし)

特段の質問、意見等がなければ、役員選任については、支払基金定款により理事会で選任するとされているので、この規定に基づき、山崎章一氏を理事として選任することとしてよろしいか。

(異議なし)

(理事長)

ただいま議決をいただいたので、山崎章一氏を理事として選任することとする。

続いて、常任顧問候補の選定結果及び選任理由について、選考委員会委員長から引き続きご報告をいただく。

(選考委員会委員長)

続いて、常任顧問候補については、2名の応募者がいた。ただ、1名の方

については、応募書類に不備があったということで、書類選考の段階から不合格とした次第である。したがって、過日1名の応募者の面接を行い、現在も常任顧問である加瀬勝氏を本理事会にご提示申し上げる。

加瀬氏を常任顧問として選任する理由であるが、これも三つほどあり、1番目は、支払基金の趣旨、経緯、医療保険制度に関する知識を十分に持ち合わせており、診療報酬の審査支払等の業務全般に関して、関係機関等や基金本部内各部室、それから地方組織との調整を行ってきた実績があること。

少し蛇足かもしれないが、この支払基金の常任顧問の役割はいろいろあるが、私の理解では、一番は、支払基金の各拠点及び本部、あるいは本部内の各部室、そういった所の連携をスムーズに行っていただく。まだ、他にもあるが、支払基金の常任顧問としての役割の非常に重要な部分かと思うので、そういった意味でも、加瀬氏は適任であると感じたところである。

2番目の理由であるが、審査支払業務に関する実務経験も豊富であり、さらなる審査実績向上が図れるよう、審査委員や現場の職員との会話など通じ、働きやすい職場づくりへ強い意欲、意志といったものを感じることができたこと。

最後に3番目であるが、各選考委員からは、これまでの十分な経験を基に、役員と現場の職員をうまく結びつけることができる、その実直な人柄が感じられるという強い意見もあり、非常に安定感があるといった意見もあった。

以上3点のことから、私たち選考委員会は、加瀬勝氏を常任顧問として適任と判断し、本理事会に提示するので、ご審議のほどよろしく願います。

(理事長)

ただいま加瀬勝氏が常任顧問候補として提示されたことについて、質問、意見等があればご発言ください。

(質問・意見等なし)

特段の質問、意見等がなければ、支払基金定款の規定により、理事会の議決を経て、顧問の選任については理事長がこれを行うとされているので、この規定に基づき、加瀬勝氏を顧問として選任することとしてよろしいか。

(異議なし)

ただいま議決をいただいたので、加瀬勝氏を7月1日付をもって顧問に選

任することとする。

また、定款上、理事長の指定する者を常任顧問とするとされているので、この規定に基づき、加瀬勝氏を常任顧問として指定することとする。

役員を選任については、支払基金法において、厚生労働大臣の認可を受けなければその効力を生じないとされているので、本日の理事会で議決していただいた理事については、直ちに厚生労働大臣宛てに認可申請をすることとする。

また、支払基金の定款の規定により、専務理事は理事長が理事の中からこれを指名するとされているので、大臣認可が得られたら、山崎章一氏を専務理事として指名することとする。

これをもって、公益代表役員等の選任についての議決を終了する。

役員選考委員会委員長におかれては、ご多用の中、選考委員会の審議、並びに本日の理事会のご出席、誠にありがとうございました。

委員長は、ここでご退席いただく。

(役員選考委員会委員長 退席)

(山崎専務理事、加瀬常任顧問 入室)

次に、議事(1)役員等の選任(案)診療担当者代表の選任について、お諮りをする。

今般、診療担当者代表の大杉和司理事から退任したい旨の申出があったので、支払基金法及び定款の規定に基づき、所属団体に候補者の推薦を求めたところ、診療担当者代表の理事として、日本歯科医師会副会長の内堀典保氏が推薦されたので、理事に選任することとしてよろしいか。

(異議なし)

異議なしと認め、理事に選任することとする。

先ほど議決していただいた公益代表理事と併せて、厚生労働大臣宛てに認可申請をすることとする。

なお、内堀典保氏の任期については、定款により前任者の残任期間とされているので、令和8年8月26日までとなる。

また、被保険者代表の寺田正人理事から退任したい旨、申出があった。後任については、所属団体からの推薦を待って、改めて理事会にお諮りしたいと考えているので、ご報告させていただく。

続いて、議事(2)令和6事業年度事業の実施状況及び決算(案)について、お諮りをする。

初めに、令和6事業年度事業の実施状況について、事務局から説明をする。

-----事務局から資料説明-----

令和6事業年度事業の実施状況に係る、

- 令和6事業年度事業の実施状況の全体像
- 令和6事業年度における事業の概況
- 新生支払基金の安定稼働の実現
- マイナ保険証の利用環境の整備と医療DXの取組の抜本的強化
- その他の業務運営に向けた取組

について説明。

(理事長)

ただいまの事業の実施状況について、質問、意見等があればご発言ください。

(保険者代表理事)

スライド26、27について、これは事業報告だから、よくやっていると一意見を述べる。スライド27にあるようにこれから支払基金も保険者協議会に参画をされるということだから、都道府県の地域医療費適正化計画、地域医療構想、それから地域医療計画でも、保険者協議会の場に支払基金が蓄積されたデータをしっかり出していただきたい。

それから、スライド2のスコアリングレポートの作成について、協会けんぽでは健康スコアリングレポートは先にやっていた訳だが、厚労省の検討の場を経て、健保組合、共済組合にも広がってきており、その作成は支払基金に委託をされている。今年度から協会けんぽも他保険者の地域ごとの比較をぜひ見たいと思ったので、この支払基金の事業にも参加することとした。ぜひ他の保険者のスコアリングレポートと比較できる形で見せていただきたい。都道府県単位の保険者の共通の部分があるので、その特性を踏まえて、医療費適正化を進めていかなければいけないということから、新年度になってからであるが、参加をさせてもらっている。作成時期は、どうしても全部の保険者のデータが集まってからとなるので、少し遅れるようである。協会けんぽだけのものは協会けんぽで即作って使っているが、これからは支払基金で他の保険者と比較したものも作成いただいて、ぜひこれを生かして、都道府県ごとの保険者協議会の場でも他の保険者とともに、その地域の医療費の特性を見て、医療提供側ともよく議論を尽くして、大事な保険料をきちんと使っていける施策を支払基金とともに進めていきたい。

また、スライド27で今後の話だが、支払基金では審査体制を中核センターに集約されてきているが、この保険者協議会は47都道府県単位であり、その都道府県ごとの供給体制と医療費というものを見ながら議論されてきているので、支払基金の47の審査委員会事務局に適切な人材を全部置くことは無理があるにしても、中核センター内の都道府県ごとのデータの違いというものを、よく踏まえて参画してほしい。協会けんぽも47支部あり、保険者協議会も47あるので、相互に47単位での視点を持って、データの分析、提供等に努めていただきたいということのお願いである。

(事務局)

今、理事からお話のあった保険者協議会の参加の関係であるが、これは、今年の2月に厚生労働省からも事務連絡が出ており、都道府県の医療費分析などにも基金が持つデータ分析力を生かした形で、保険者協議会に参画なども含めて取組を進めることが期待されるといった内容である。基金では令和7年度より全国6中核センターに1人ずつ地域医療情報化推進役を設置し、地域における様々な医療費をめぐる課題を把握して、どういう貢献ができるか検討していく。順次、各都道府県の保険者協議会の事務局を訪問もさせていただいているが、ぜひオブザーバーみたいな形で力になってほしいということで、既に福岡では、開催の場にも参加をさせていただいており、その他のところも続々と積極的に協力をとられている。参加することだけが目的ではないので、どういう役割を求められているのか。特に国保のほうは、既に国保全体のデータに基づく地域の分析はできているが、社保については、個々の保険者では取組は限界があるので、そういったものを補完するという役割も期待されているところと思う。

今年度、どういう貢献ができるかという検討を参加を通じて行っていくので、それも踏まえて今後の体制の充実強化についても考えられると思っている。

(保険者代表理事)

よろしく願います。

(理事長)

ほかに質問・意見等があればご発言ください。

(診療担当者代表理事)

スライド26、保健医療情報の提供の充実であるが、特に能登半島地震において、災害時モードで避難されてきた方の薬剤情報が閲覧できたことは、実際に石川県にて診療に当たられた医療機関の先生方から、これは大変役

に立ったとお聞きしている。今後、災害時には大いに役立つものと思うので、ここのところをしっかりと充実を続けていただきたいと思います。

また、スライド27で、いわゆるビッグデータの活用ということによって、NDBが、今後、新しく作られた難病、あるいは小慢データベースなどとして、しっかりと連結できることで、ますます国民の医療の質、安全性の向上につながるような研究開発につながるものと思うので、ここのところもしっかりとお願いしたい。

もう一つ、健康保険証の新規の発行が停止されたということで、この8月くらいから特に国保のほうが、どんどん新しい発行が無くなる、あるいは社保の保険者は、また年末に向けて、そのようなことが行われている。そうすると、被保険者にそのことの十分な周知がされないと、医療現場で大変混乱が起こるかと思うので、ここのところは、やはり医療機関も保険者も、そして支払基金もみんなですっかりと一致団結して、協力して、丁寧に進めていく必要があると思う。

(理事長)

ご指摘に感謝申し上げます。

最後の点の保険者証の発行が、特に国保等や後期高齢者医療制度では8月から止まることになる。後期高齢者については、資格確認書を一齐に発行するということであるが、国保等については、基本的には発行されないことになるので、厚生労働省とも連携した周知広報と合わせて、支払基金としては、特にそれによる資格確認の照会の増加等に合わせて、システム運用上問題がないかどうか今検討しているので、しっかりと備えをして、支障のない運用ができるように努めていきたいと考えている。

ほかに質問・意見等があればご発言ください。

(被保険者代表理事)

スライド21だが、オンライン資格確認等システム等の安定運用の中で、例えば、アプリの開発段階で誤りを見抜けなかった事案など、この1年、似たようなことが複数あったかと思う。今後は支払基金の役割がますます高まっていくと思うので、これからも再発防止策を徹底されながら取組を進めていただきたい。

(理事長)

スライド21にある、マイナ資格確認アプリで本人同意がないにもかかわらず情報が提供されたという事案である。テストの計画のチェックを、ベンダー側だけではなく、こちら側でも横断的にチェックをするという体制を敷いている。今後とも、こうしたことが再発することが無いよう、ベン

ダーともしっかりと連携しながら取り組んでいきたいと考えている。
ほかに質問、意見等があればご発言ください。

(質問・意見等なし)

特段の質問・意見等がなければ、事業の実施状況については、原案のとおり決定することとしてよろしいか。

(異議なし)

異議なしと認め、原案のとおり決定をさせていただく。
続いて、審査支払会計について、事務局から説明をする。

-----事務局から資料説明-----

審査支払会計（事務費勘定）に係る、

- 決算の概況
- 収入支出予算と決算内訳
- 損益計算書
- 貸借対照表
- 貸借対照表の表記方法の変更

について説明。

(理事長)

ただいまの審査支払会計について、質問、意見等があればご発言ください。

(質問・意見等なし)

特段の質問・意見等がなければ、審査支払会計、スライド33をご覧くださいと、今事務費勘定について説明をさせていただいたが、その他2勘定についても原案のとおり決定することとしてよろしいか。

(異議なし)

異議なしと認め、原案のとおり決定をさせていただく。
続いて、保健医療情報会計及び医療介護情報化等特別会計について、事務局から説明をする。

-----事務局から資料説明-----

保健医療情報会計（情報基盤運用勘定及び情報基盤整備勘定）、
医療介護情報化等特別会計（医療情報化支援基金勘定）に係る、

- 決算の概況
- 収入支出予算と決算内訳
- 損益計算書
- 貸借対照表

について説明。

（理事長）

ただいまの保健医療情報会計及び医療介護情報化等特別会計について、
質問、意見等があればご発言ください。

（質問・意見等なし）

特段の質問・意見等がなければ、2会計6勘定のうちの3勘定について説明
させていただいたが、スライド45にあるとおり、2会計6勘定について、
原案のとおり、決定することとしてよろしいか。

（異議なし）

異議なしと認め、原案のとおり決定をさせていただく。
続いて、財政調整等特別会計について、事務局から説明をする。

-----事務局から資料説明-----

財政調整等特別会計

後期高齢者医療特別会計（事業費勘定）、
退職者医療特別会計（事業費勘定）に係る、

- 決算の概況
- 収入支出予算と決算内訳
- 損益計算書
- 貸借対照表

前期高齢者特別会計（事業費勘定）、
子ども・子育て支援納付金特別会計（事務費勘定）に係る、

- 収入支出予算と決算内訳
- 損益計算書
- 貸借対照表

について説明。

(理事長)

ただいまの財政調整等特別会計について、質問、意見等があればご発言ください。

(意見・質問等なし)

特段の質問・意見等がなければ、スライド66でご覧いただいたように、特別会計は全部で9会計17勘定あり、4勘定について説明させていただいたが、この9特別会計17勘定について、原案のとおり決定することとしてよろしいか。

(異議なし)

ただいま議決をいただいた各決算について、スライド33、34にある審査支払会計、保健医療情報会計については、支払基金法を根拠としており、こちらは厚生労働大臣宛てに提出する。

また、支払基金法以外を根拠法とする、医療介護総合確保法に基づく医療介護情報化等特別会計、また、今、説明させていただいたスライド66にある前期高齢者特別会計から子ども・子育て支援納付金特別会計までの9会計については、子ども・子育て支援納付金特別会計はこども家庭庁長官に対して、またそれ以外については、各法で、高齢者医療確保法であるとか、介護保険法など、それぞれの法律に基づき、厚生労働大臣宛てに提出の上、承認を受けることとなるので、その手続を進めさせていただく。

なお、財産目録、事業状況報告書については、支払基金ホームページにも掲載するほか、基金本部に備えておくこととしている。

続いて、議事(2)本部監事監査結果報告について、公益代表監事から報告をする。

(公益代表監事)

去る6月12日、13日の両日、本部において決算及び業務に関する監査を行った。その結果について、報告する。

スライド82をご覧いただきたい。

まず、令和6事業年度の決算監査については、審査支払会計のほか、各会計の事業報告書、決算報告書は、法令及び定款に従い、社会保険診療報酬支払基金の状況を正しく示しているものと認められ、併せて各会計にお

ける財産目録、財務諸表及び附属明細書についても、規程などに従い、適正に処理されていると認められた。

また、外部監査法人である有限責任監査法人トーマツの監査方法及び結果は相当であると認められた。

監査結果については、資料No.13-1として添付しているのので、後ほどご覧いただきたい。

なお、外部監査法人からは、今回の決算において、各会計の財務諸表などにつき、法令、規程等に準拠して作成されている旨の意見が記された報告を受けている。監査法人の監査報告書については、資料No.13-2として添付しているのので、これについても、後ほど高覧いただきたい。

次に、スライド83をご覧いただきたい。

令和6事業年度の各部室などに対する業務監査について、主に3点につき意見を述べさせていただく。

まず1点目、各部室などにおいて、事業計画に記載の項目につき、工程・進捗管理を行いながら、着実に取組を行っているものと認められる。令和6事業年度は「本格稼働した新生支払基金を安定稼働へ移行させる年」と位置づけ、審査事務集約以降の業務運営状況につき、着実なフォローと課題がある場合には必要な取組を行ってきたところであるが、引き続き、基金改革の目的である審査結果の不合理的な差異解消とICTを活用した業務の効率化に向け、組織運営面、人事労務面にも配慮した対応を図るようお願いしたい。

2点目は、過年度監事意見書の中で指摘を行ってきた「災害対応態勢の見直し及び継続的なレベルアップの必要性」について、保健医療情報などの活用領域を含め、事業継続計画（BCP）による実効的な初動対応の発動に向け、引き続き、具体的な災害訓練計画の策定と、その定期的な実施をお願いしたい。

3点目は、内部統制マニュアルについて、各種委員会・部会等の体制構築、規程・マニュアル・各種チェックシート等の整備を通じ、各組織において理解・定着が図られてきていると認められるが、今後もより実効的なシステム態勢の構築に向け、継続的な運用と見直し、改善に取り組むようお願いしたい。

以上の3点を業務監査結果としている。

なお、本部監事監査と併せて、自動遷移ツール事案に係るフェーズ2の検証も行っているが、この報告については、この後の報告事項において、詳細な報告をさせていただく。

（理事長）

ただいまの本部監事監査結果報告について、質問、意見等があればご発

教えてください。

(質問・意見等なし)

特段の質問・意見等がなければ、次に報告事項に移る。

報告事項(1)自動遷移ツール事案の再発防止策の進捗状況について、事務局から報告をする。

-----事務局から資料説明-----

自動遷移ツール事案の再発防止策の進捗状況に係る、

- 審査の目標に係る趣旨の周知
- システム運用上の対策
- 職員に対する情報セキュリティ及びコンプライアンス意識の徹底
- 組織風土の改革
- 地方組織における主な取組状況
- 今後のスケジュール

について報告。

(理事長)

ただいまの自動遷移ツール事案の再発防止策の進捗状況について、質問、意見等があればご発言ください。

(質問・意見等なし)

特段の質問・意見等がなければ、次に報告事項(2)自動遷移ツールに関する監事検証の進捗・結果報告について、公益代表監事から報告をする。

(公益代表監事)

4月の理事会でご報告した自動遷移ツールに関する監事検証進捗・報告計画(フェーズ1)に続き、本日は6月12日及び13日に実施した本部監事監査において、併せて実施した再発防止策に係る本部各執行部門とのヒアリングの結果に基づく「フェーズ2」の検証について報告させていただきます。

スライド107をご覧ください。

このスライドの「目的」、「検証監事メンバー」及び「検証方法と項目等」については、既にフェーズ1においてご説明しているため、個々では省かせていただく。

次に、スライド108をご覧ください。

「フェーズ2」の検証方法と項目についてご報告する。今回実施した「フェーズ2」では、監事4名が本部執行部門の事業統括部、審査運営部、システム部、及び経営企画部を中心に各部門担当者の方々とヒアリングを行った。

その理由として、2点ある。まず1点目、組織全体の健全性を確保する「仕組み」が機能しているかどうかを確認すること。そして2点目、9月に予定している地方組織への業務監査に先立ち、本部執行部門が地方組織へ必要な支援、例えば研修、体制づくり、運用ルールなどをどれだけ行い、またそれが機能しているかを把握するためである。

スライド109をご覧ください。

スライド108を踏まえて、再発防止策の進捗と地方組織への支援の2点に絞ってヒアリングを行った。また、フェーズ1で、常勤理事及び常任顧問の方々から示された資料に記載してある四つの再発防止策に関する課題についても、併せて確認を行った。

スライド110をご覧ください。

まず、各執行部へのヒアリングの結果だが、1点目、再発防止策の進捗状況についてである。本部執行部門は、ブロック幹部会議などを通じて定期的に進捗を報告し、組織風土改革委員会でも活動報告を行っている。その上で、全体の進捗状況は、令和7年5月以降開催の理事会で報告されている。また、特に令和7年4月の理事会で報告されたシステム運用対策の見直しについては、地方組織へのヒアリングが限定的であったために、当初把握しきれなかった業務への影響を解消するため、地方組織の職員からの意見を踏まえて、5月16日から運用を見直ししている。この運用で特に問題等は発生していないことを確認した。

スライド111をご覧ください。

次に、2点目、地方組織への支援状況について、スライド111と112に記載している。主に6点である。1点目、審査目標の明確な周知、2点目、システム運用の強化、3点目、情報セキュリティとコンプライアンス意識の徹底に努めていることを確認した。

スライド112をご覧ください。

続いて、4点目、組織風土改革として、管理職と職員の1on1面談を新たに開始したこと、また、職員から意見を吸い上げるための業務フォローアップツールの活用も改めて周知されている。これにより、多数の業務改善提案が寄せられ、既に対応が進んでいる。

中段 5点目、組織としてDX推進を進める中で、組織内外の信頼関係の構築についてである。ブロック幹部会議が、本部と地方組織の情報共有、意見の場として機能し、コミュニケーションを通じた連携強化を図っており、先ほど報告したとおり、再発防止策の進捗は理事会で外部関係者の方々へ

も定期的に報告されている。

最後に6点目、所内リスク体制として、様々なリスク事象の報告体制が確立している。詳細については、スライド111、及び112に記載しているので、後ほどご高覧いただきたい。

次にスライド113をご覧いただきたい。

その他の点として、情報セキュリティ対策に関して、主に2点を整理した。1点目は、審査支払システムへの不正接続防止のため、定められたデータ移行にCD-Rを利用し、その利用を管理簿へ管理する等の対策が講じられている点である。令和7年6月時点において、不正利用等は確認されなかった。2点目、一方で、CD-R自体の容量制限などが懸念されるため、今後、中長期的な対策を求めたところである。

最後にスライド114をご覧いただきたい。

今回の「検証の進捗状況（フェーズ2）のまとめ」として、5点に整理し取りまとめた。現時点では、本部からの情報収集段階にあることを踏まえ、1点目、フェーズ1で得られた情報を基に本部を対象としたヒアリングを行い、再発防止策が適切に実施されているかを具体的に検証し、報告された再発防止策が実行されており、順調に進行していることを確認した。2点目、情報セキュリティ対策などにおいて課題への迅速な対応が行われている。3点目、積極的に進捗状況を理事会で報告している。4点目、本部執行部門には監事検証へご協力をいただいている。5点目、組織全体の健全化を確保する「仕組み」として、内部統制とリスク管理部門が、情報システムや事務手続などに関するリスク管理体制を整備していること、ヒヤリハットや事故のみならず、不適正な処理等を未然に防ぎ、潜在的なリスクを早期発見できるように、各種研修など執行部門と連携し、基金の円滑な業務運営に努めていることも確認した。

以上、5点をフェーズ2の検証結果としている。

次に、今後の検証方針と理事会報告予定であるが、今後の検証はフェーズ3として、地方組織に対する検証を行い、併せて原因究明も含め、最終報告に向けて内容を整理する予定である。また、今後の理事会報告については、9月の理事会において、地方組織監事監査と併せて、フェーズ3の結果報告を行う予定である。これは、4月の理事会で11月を予定していた報告時期を前倒しするものである。

(理事長)

ただいまの自動遷移ツールに関する監事による検証の進捗・結果報告について、質問、意見等があればご発言ください

(保険者代表監事)

スライド110の書きぶりだが、システム運用の件で共通フォルダへのアクセス制限について、5月の理事会で、現場の声を聞かずにいきなりシャットダウンしたみたいな発言をしたが、今回の6月12日、13日の両日の本部の監査のヒアリングの結果、ここに書いてあるとおり、一部の地方組織のヒアリングをした結果で、あくまでもこのシステムに対するリスクヘッジするために、共有フォルダに対して管理職以上に制限したと、そういう表現をされていたので、全く現場の声を反映せずに本部で共有フォルダへのアクセス権限を管理職以上に決めた訳ではないことが分かったので、追加で確認できた事項として報告させていただいた。

いろいろな文章の表現はあるが、やはり正しくやられている事実が大事であるから、せっかく迅速に物事を進めようとしているが、その事実として、表現としては、正しくやられていることは盛り込んだほうが、私のように誤解をする人間も少ないと思い、一言申し添えた。

(理事長)

ご指摘に感謝申し上げます。

ほかに質問・意見等があればご発言ください。

(質問・意見等なし)

特段の質問・意見等がなければ、次に報告事項(3)令和7年6月審査委員改選の状況について、事務局から報告をする。

-----事務局から資料説明-----
令和7年6月審査委員改選の状況について報告。

(理事長)

ただいまの令和7年6月審査委員改選の状況について、質問、意見等があればご発言ください。

(質問・意見等なし)

特段の質問、意見等がなければ、報告事項(4)令和6年度の支払基金の取扱状況、診療報酬等確定状況と審査状況について、事務局から報告をする。

-----事務局から資料説明-----

令和6年度の支払基金の取扱状況

- 診療報酬等確定状況（令和6年4月診療分～令和7年3月診療分）
 - 審査状況（令和6年5月審査分～令和7年4月審査分）
- について報告。

（理事長）

ただいまの令和6年度の診療報酬等の確定状況、審査状況について、質問、意見等があればご発言ください。

（被保険者代表理事）

スライド141において、再審査処理件数に対する査定件数の割合が令和6年度の分も出て、年度ごとの推移としては、全体を平均した「合計」が下がっている傾向に見受ける。これと同じ傾向にあるのは「その他」であるが、全体の傾向として下がっているのは何が影響しているのか、おおよその見解はあるのか。

（事務局）

「その他」はウエイトが小さいので、全体への寄与は少なく、「協会・船員」のウエイトが大きいため、そこが影響していると思う。「その他」は令和6年度が少し上がる形になっているので、「協会・船員」と同様に下がる「合計」とは少し動きに違いが出てしまう。

（被保険者代表理事）

グラフの一番左にある平成29年度から一番右にある令和6年度までの傾向が全体として下がっているように見受けるが、それでもやはり協会けんぽの影響ということか。

（事務局）

全てが協会けんぽの影響ではなく、共済組合と健保組合も下がっているため、そちらが影響している。

（理事長）

ほかに質問、意見等があればご発言ください。

（質問・意見等なし）

特段の質問、意見等がなければ、次に、報告事項(4) 特別審査委員会の審査状況及び報告事項(5)の支払基金における審査の一般的な取扱いの公表について、事務局から報告をする。

-----事務局から資料説明-----

令和6年度の支払基金の取扱状況

・ 特別審査委員会の審査状況（令和6年5月審査分～令和7年4月審査分）
支払基金における審査の一般的な取扱い（医科）の公表
について報告。

(理事長)

ただいまの令和6年度特別審査委員会の審査状況、支払基金における審査の一般的な取扱いの公表について、質問、意見等があればご発言ください。

(質問・意見等なし)

特段の質問、意見等がなければ、次に定例報告に移るが、予定していた閉会時間が迫りつつあり、この後、予定のある理事の方もいらっしゃるので、定例報告については説明を省略させていただく。お配りしている資料については、後ほどご高覧をいただきたい。

定例報告の次に、その他の報告として、令和7年6月の期末手当及び勤勉手当の支給については、スライド最終ページのスライド182にあるように、国家公務員及び他の公的機関の改定状況を勘案して、スライドにあるとおり支給することとしたので、報告をさせていただきます。

全体を通して、何か質問、意見等があればご発言ください。

(質問・意見等なし)

ご承知のとおり、昨日で令和7年の通常国会が閉会したが、支払基金の抜本改組を内容に含む医療法等の改正法案は成立をしておらず、継続審議の扱いになっている。ただ、これについては、政党間の合意、与党と一部野党の合意に基づき、必要な法案の本則、附則の修正をした上で、本年の国会における成立を図ることと確認がされていると承知をしている。引き続き、支払基金としては必要な抜本改組に向けた準備、検討の作業は進めていきたいと考えている。

冒頭申し上げたとおり、本日が最後の出席となる寺田理事、大杉理事からご挨拶をいただきたい。

初めに、寺田理事、よろしくお願ひする。

(寺田理事挨拶)

続いて、大杉理事、よろしくお願ひする。

(大杉理事挨拶)

寺田理事には約3年間、大杉理事には2年間、それぞれのお立場から、支
払基金の改革等の業務の実施状況等について貴重なご意見、ご指導を賜っ
たことに、この場をお借りして、心から御礼を申し上げたいと思う。

それでは、本日の理事会は、これをもって閉会とさせていただきます。

次回の理事会については、7月28日、月曜日の午後3時から開催する予定
としているので、日程の確保方、よろしくお願ひ申し上げます。

令和7年6月23日

理 事 長 神 田 裕 二

被 保 険 者 代 表 理 事 西 尾 多 聞

診 療 担 当 者 代 表 理 事 茂 松 茂 人